

第16回神奈川県わくわくモーモースクールが開催されました

神奈川県酪農教育ファーム推進委員会は、児童たちに乳牛とのふれあい体験や酪農家からの話を通じて動物に対する興味を高め、命の尊さを伝えるとともに、畜産に対する理解を深めることを目的に、『わくわくモーモースクール』を開催しています。今年度は12月10日に逗子市小坪小学校で開催しました。

当日は成牛1頭と子牛2頭が学校内に搬入され、県内酪農家（6名）や乳業メーカー、畜産関係団体、当所を含む県関係機関の職員が協力し、『牧場の仕事』『子牛とのふれあい』『バターづくり』『搾乳体験』『搾乳疑似体験』『牛の体の秘密』の授業が全校生徒293名を対象に行われました。

『牧場の仕事』では、畜産農家が道具やエサ、牛の等身大タペストリーを用いて、実際の農場での仕事を紹介をしながら授業を実施しました。『バターづくり』では、乳業メーカー職員がTVモニターを通じて、各教室へ授業を配信しました。当所は『牛の体の秘密』の授業を担当し、3年生に対して、牛の一生についてや生乳が牧場から食卓まで届く過程をポスターを用いて紹介しました。

児童からは、「牛に胃が4つあるのはなんで？」「オスもいないと牛が生まれないんじゃないの？」「乳房が後ろ肢の間にあるのはなんで？」「オスのほうが角は大きいのか？」といった質問がありました。また、農場ごとに牛乳の味が違うことや、オスはお肉になること、牛の胃は大人が入れるくらい大きいことといった説明に興味が集まりました。

授業終了後、給食の時間には、神奈川県産100%『きんたろう牛乳』を提供し、児童たちに味わってもらいました。児童たちの牛や畜産に対する高い関心と反応が直接伝わるこのイベントは、酪農家にとって励みとなる良い機会となりました。



写真1 搾乳体験の様子



写真2 『牛のからだの秘密』授業

今後の取組：畜産技術センターでは、今後も酪農への理解を深める支援活動を続けてまいります。

備考：神奈川県酪農教育ファーム推進委員会（事務局 神奈川県酪農業協同組合連合会）は、酪農家、乳業メーカー、畜産関係団体等により構成され、当所もその一員になっています。